

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ワナビー槻木			
○保護者評価実施期間	2026年 1月 15日 ～ 2026年 2月 7日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数)	2名
○従業者評価実施期間	2026年 1月 15日 ～ 2026年 3月 7日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12名ワナビー城南・槻木合わせた数	(回答者数)	11名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 4月 1日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・お子様一人ひとりの発達段階や特性に合わせた、オーダーメイドの個別プログラムを作成・実施していること	・計画の作成時に保護者と目標を共有し、毎月の療育後に「できたこと・変化したこと」を具体的にフィードバックする仕組みを作っていること。 ・事務的な報告だけではなく、お子様の些細な成長やエピソードを写真や短いメッセージで添え、情緒的なつながりを深めている。	・職員間の疎通性を更に意識的に高めることで質の高いサービスを利用している児童と保護者に還元していく。
2	・公園や図書館など、地域社会と連携した外出支援や体験の機会を多く設けていること。	・公共マナーの体験的学習を遊びの中でさりげなく伝えていること。 ・出会った地域の方への挨拶やマナーのロールプレイを事業所内で練習してから現地へ向かうこと。	・「外出先でこんな工夫が有効でした」という情報を保護者へ伝え、休日のご家族でのお出かけでも活用してもらえよう情報をシェアする。 ・外出先でのお子さまの反応をスタッフ間で共有し、次の外出プランを調整する。
3	・送迎サービスの充実や、主要駅・住宅街からのアクセスが良く、通いやすい環境であること。	・車内や送迎中を、家庭モードから療育モードへ、あるいは療育モードから家庭モードに戻る「安心の移行期間」と位置づけてその日の楽しみを話したりリラックスできる会話に努めている。	・送迎中に見られた「信号の色を言えた」「窓から見えたものに興味を示した」といった、保護者が普段見逃しがちな小さな成長を専用のノートやアプリで調整する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・ヒヤリハット報告の少なさ。	・業務時間内での作成の困難さがあること。 ・報告することで自分のミスが露呈し、評価が下がると感じる心理的安全性の欠如感があること。 ・どこからが報告すべき事象なのか、スタッフ間で共通認識が持っていないこと。	・業務時間内に書面作成が行える時間を作る。 ・些細な気付きや報告に対し、チーム全体で評価・共有する仕組みを作り、報告自体をポジティブな行為と位置づける。 ・報告された事例をもとに「もしもの時にどう動くか」を話し合う場を短時間(5分程度)で定期開催し、改善のシードバックを可視化する。
2	・防犯面の質の向上。	・不審者の侵入や子供の飛び出しなど実際の緊急時を想定したシュミレーションが不足していること。 ・毎日同じ環境で過ごしている為、外部からの侵入リスクや死角に対する危機管理意識が薄いこと。 ・地域の不審者情報や防犯体制のアップデートが不足していること。	・防犯カメラの導入やセンサーライトの導入など物理的な対策を検討する。 ・定期的にスタッフ間や不審者役を交えたロールプレイングを行い、マニュアルが現場で機能するかを確認する。
3	・車両での送迎表作成の複雑さ(ルート、時間、経路の複雑さ、当日直前の変更など)	・特定のスタッフにしか組めない(暗黙知に依存している)ため、確認や修正に多大な時間がかかっていること。 ・保護者からの連絡、スタッフ間の伝達、送迎表への反映というプロセスがぶたんだんされており、工程が複雑化してる。 ・Excelや紙での管理が中心でICTを利用した自動化・最適化の恩恵を受けていないこと。	・送迎専用ソフト導入の導入により、複雑な経路計算をデジタル化することで組める人員を増やす。 ・送迎専用アプリと連携させて運用し、送迎予約・変更を一元管理し、情報の反映漏れや確認コストを削減する。